



< 11月の予定 >

木曜日	すべて	17:00~19:00 (針ヶ谷小学校体育館)
土曜日	6日・27日	15:00~17:00 (全員:本太中修道館)
	13日	15:00~17:00 (防具組:本太中修道館剣道場) (基本組:駒場体育館柔道場)
	20日	15:00~17:00 (防具組:駒場体育館剣道場) (基本組:本太中修道館剣道場)
	■14日(日)	やどかり剣生会との交流会 9:00~12:00 (常盤小学校体育館)

< 12月の予定 >

木曜日	2日・9日・16日・23日	17:00~19:00 (針ヶ谷小学校体育館)
	30日	お休み
土曜日	4日	15:00~17:00 (防具組:駒場体育館剣道場) (基本組:駒場体育館柔道場)
	11日	15:00~17:00 (全員:本太中修道館)
	18日	クリスマス会 14:30~17:00 (全員:本太中修道館)
	25日	OB会 駒剣稽古納め 9:00~11:00 (大宮武道館主道場全面)
	■4日(土)	浦和剣連一・二・三級審査会 9:00~ (さいたま市記念総合体育館)

< 1月の予定 >

木曜日	6日	稽古始め
	13日・20日・27日	17:00~19:00 (針ヶ谷小学校体育館)
土曜日	8日	15:00~17:00 (全員:本太中修道館)
	15日	15:00~17:00 (防具組:駒場体育館剣道場) (基本組:本太中修道館剣道場)
	22日・29日	15:00~17:00 (防具組:駒場体育館剣道場) (基本組:駒場体育館柔道場)

※ 状況により稽古場の場所が変更になります。

詳細等は slack をご確認ください。



本荘先生からのお言葉

暦の上では「立冬」といわれる時期になりました。寒い冬になるのはもう少し待ってもらい、しばらくは秋晴れの青い空の下で気持ちよく稽古をしたいものです。

さて、緊急事態宣言が解除となり、昨年度できなかった駒剣の行事も少しずつ復活させています。10月末の木曜日に小学生を対象にした審判講習会を、土曜日にはお父さんお母さんのための（と言いながら全体に向けての）スコア付け教室を開催しました。小学生のうちは大人に審判をしてもらうことが多いですが、中学生になると練習試合や錬成会などお互いに審判をしようことが多くなります。日常の部活で稽古は行っているけど審判のやり方はきちんと習わずに、なんとなくやっている中学生が多いのが実情です。特に十分に一本となっている技に対して誰も反応しない場面を多く見ます。「一本」と判断したら自信をもって「さっ」と旗を上げてもらいたいです。もちろんなんでもかんでも上げるようでは信頼される審判にはなれません。駒剣士が今しっかりと学び、中学生になったときに仲間に教えてあげてほしいと思います。審判は難しいです。見る角度によって見え方は変わりますし、当たれば一本というわけでもありません。だからこそ審判自らが日々稽古に打ち込み、試合者の気持ちを汲み取る必要があります。試合者の動きを予想できるとスマートなジャッジができます。最初のうちはミスをすることもあるでしょう。そこで躊躇せずに経験を積んでください。スコア付けも慣れてくると面白くなります。やっているうちに試合者の数、使える時間、コートの数、審判の数などからどんな試合方式が最適か、大会を組み立てられるようにもなります。6年生の審判は今回だけでは時間が足りませんでしたので、また機会を設けてやってもらおうと思っています。



機会といえば先月号の最後に「試合の機会を作りたい」と書きました。ということで今月14日（日）に「やどかり剣生会との交流会」を企画しました。予定では、2会場作り1つは駒剣で言う「防具組」の試合を、もう1つでは赤タスキを含む基本組の試合を行います。どちらも駒剣で2チーム作り、やどかりさんの同じようなキャリアのチームと試合を組みます。そのあと中学生と大人の試合を紅白試合のような形で行います。そして、合同稽古を実施し、交剣知愛を深めたいと考えています。これまで駒剣以外の人と剣を交えることができませんでした。いろいろな剣風を知ることは大事なことです。参加できる人は良い機会としてください。

12月4日（土）に、浦和剣道連盟主催の剣道一・二・三級審査会がさいたま市記念総合体育館（サイデン化学アリーナ）で行われます。一級は特二級を持つ6年生以上なので受審者はいないと思いますが、二級は5年生以上、三級は4年生以上で、駒剣でその級に合格していれば受審可能です。審査内容は二級が剣道基本技稽古法「六」まで、三級で「四」までとなっています。講習は「九」までやります。講習料500円で受審料、登録料は要りません。無理して受ける必要はありませんが、二・三級は午前中に終わりますので、希望者がおりましたら役員さんまで申し出てください。一人一人が目標をもち、しっかり稽古に励んでいきましょう。

太郎の百錬自得



第90回

アフターコロナの剣道は

コロナもワクチン接種が進むとともに、感染者数も大きく減ってきています。何ヶ月も経過すると、抗体が少なくなるそうで、また3回目のブースター接種をしたほうがよいと言われていきますし、まだまだ気は抜けません。しかし、個人的にはようやく光が見えてきたなという気がしています。

とはいえ、昨年から流行ったコロナウイルスは、世界を大きく変えています。剣道だけ別というわけではないと思います。今もコロナ禍の特別ルールとして、鏝迫り合いはお互いに解消するようにする、審判も並びの間隔あける、など変更されています。今後ルールが緩和されていくだろうと思われませんが、元に完全に戻ることはない気がしています。いえむしろこの機会に前から変えていったほうが良いと思われていることを、良い方に変えていければいいと思います。

先日の報道で知ったのですが、部活動に求めるものも変わりつつあるようです。

<https://digital.asahi.com/articles/DA3S15086160.html>

集団主義からマイペース、安全重視、といったことがみえてきているとのこと。

剣道は痛い系の競技であるところが課題と感じました。

ただ基本的に剣道は、少人数で稽古できる競技ですし、稽古時間も短いです。安全性（痛み問題も含めて）をアピールして、これからも選択してもらえる競技にしていきたいものです。

痛み問題でどう対策するべきか考えてみると、防具をつけて自分を打たせるのに大きな壁があると思います。

経験者でも痛いことがあるわけで、初心者が理合もなく打たれるわけですし、防具も薄いときたら、痛いに決まっています。まずは形稽古をして、相手が打ってくる理合を学ぶことは大事だと思います。打ってくる機会がわかれば精神的な痛みはだいぶ緩和されます。

また防具についても軽くて動きやすいものが販売されている傾向かと思えます。経験者や試合巧者がより使いやすいものを開発しようとする、どうしてもそういう流れになるでしょう。はたしてそういった目的で作られた防具が初心者にとって使いやすいか、剣道を楽しんでいると思って続けてもらえる防具かは、ぜひ防具開発時に考えてもらいたいなと思ったりします。

さて、11月はやどかり剣生会さんとの交流稽古がありますね。久しぶりの交流稽古会、楽しみです。



新ジャイアのはなうた♪



よっ！ みんな、元気か？

あつという間に秋になって、日が短くなってきたな。

「秋の日はつるべ落とし」といって、秋は、早く太陽がしずむだけでなく、しずんだ後もすぐに真っ暗になるんだって。いわれてみれば、なるほどと思うな。

なんとなくさみしいようにも思うけど、気温も下がってきて、剣道するにはちょうどいい季節だ。大きな声を出して、元気よく剣道しような。

さて、今月の14日は、やどかり剣生会との交流会があるな。駒剣の方から、やどかり剣生会さんが稽古している常盤小学校にうかがって、試合と稽古をするみたいだ。

そこで、問題。こういうときに一番大切なことはな～んだ？

そう。礼儀だよな。これは、誰でもわかる答え。問題はその後。じゃあ、礼儀って、どうすれば良いんだろう。難しいよね。こういう時は、当日のことを思い浮かべてみる（シミュレーションしてみる）といいぞ。

まず、常盤小学校に着くよな。体育館の方に向かうよな。誰かとすれ違ったり、会うかも知れないな。そうしたら、大きな声で、「おはようございます。」とあいさつしよう。別に、やどかりの人でなくてもいいぞ。

次に、体育館に入っていくよな。体育館に入るときは、いつも以上に大きな声で、「お願いします。」と言って、入ろう。その上で、やどかりの人に案内されたり、話し掛けられたりしたら、「ありがとうございます。」「よろしくお願いします。」という言葉をはっきり伝えよう。まあ～、だいたいこのくらいは、想像できるかな？

そして、稽古。試合の前に、準備体操や基本打ちなんかがあるかもしれないな。その時には、精一杯大きな気合を出そう。え？それは、礼儀と関係ないんじゃないかって？

そうじゃないんだな。稽古をするときに、自分の力を100%出すことは、もっとも大切な礼儀なんだ。だから、普段の稽古でも、100%の力を出していないと、相手に失礼になってしまうし、試合の時や、今回みたいにほかの団体を訪問したときなどは、特に、精一杯大きな気合を出して、自分の力を100%出すことが大切になるんだ。そのところを、きもに命じて交流会にのぞんでくれよな。

もちろん、帰る時のあいさつも重要だな。

ところで、今年も埼玉大学の寒稽古はなさそうだけど、駒剣の寒稽古はあるんじゃないかな。寒稽古については、別の機会に書こうと思うけど、ここでも大切なのは、取り組む姿勢だと思うぞ。剣道は、下手くそでも、一生懸命続けていけば、だんだん強くなって、抜けないと思っていた相手を抜くことができる武道だ。「継続は力なり」「ローマは一日にしてならず」ということわざを調べてみてくれよな。きっと、ファイトがわいてくるぞ。

じゃあ、またな！





お父さんお母さんのための スコア付け教室

令和3年10月30日（土）

@駒場体育館

昨年度は実施できなかったスコア付け教室が2年ぶりに開催されました！13名のお父さんお母さんがバインダー片手に熱心に学びました。参加した感想をうかがいました。

親子共に初参加させて頂きました。息子はまだ年齢が低いため、どの程度理解できたかはわかりませんが、剣道にもサッカーなどの他のスポーツと同じようにルールがあることや、団体戦ではチームの一人一人が頑張って勝ちを取りに行くんだ、ということは伝わったのでは、と思います。また機会があれば一緒に参加させて頂きます。ありがとうございました。スコア付け教室の後半、基本組が紅白に分かれて団体戦を行った時の感想として、息子が「旗って、打ってもなかなか上げてもらえないんだね。キレイに決まらなないとダメなんだね。」としみじみ言っていました。審判やスコアについてのお話を聞いた後だったので、初めて、旗（審判）を意識しながら試合に臨むことができたのかな…と思いました。その気付きを忘れず、旗の上がる一本を決められるようになるように、これからも稽古に励んでほしいと思います。

コロナ禍のなか、開催ありがとうございます。本荘先生のお話をうかがって色々を知ることが出来ました。実際、子どもたちの試合を見ながらスコアをつけてみると、決まった書き方など慣れないところが多いと感じました。また、3日の全日本剣道選手権を、以前よりは知識を持ちながら見ることができ、親子ともに少しは成長できているかなと思えて嬉しかったです。

先日のスコア付け、とても難しかったです！剣道の試合を見るのも、このこまけんで初めて見るほど超素人なのですが、スコアの付け方がこんなに独特なんだと、びっくりしました。技が決まるのが一瞬なので見逃せない緊張感と同じタイミングで両者が面をした時など、全然わからなかったです。でもこれからの見方が変わってきそうだなと感じました。貴重な経験をありがとうございました。

剣道経験ありますが、知らなかった点や誤って理解をしていた点もあり、大変勉強になりました。娘も普段、何気なく見ていた試合のルールやスコアを勉強でき楽しかったそうです。親子共々、今後剣道の試合等を見る際は教えて頂いたことも思い出しながら見てみたいと思います。貴重な機会を賜りありがとうございました。

初めて剣道のスコアの事を知り、細かいルールが多くて難しかったです。時々、スコアを付けないと忘れてしまうのでスコアを付ける機会をお稽古の中で時々頂けたら助かります。



スコア付け教室に参加させていただき
ありがとうございました。

スコアの書き方を始め、審判のやり方
等改めてとても勉強になりました。今回
講演いただいたことで、「何気無く知っ
ていてやれること」が「説明できる知識」
になりました。

また、最近では機会の少なかったイベント
が行えたことで、子どもたちが頑張って
スコア付けや審判・試合をする場面
を見ることができ、更に他の保護者と協力
して試合を進行させる経験もできたこ
と、大変嬉しく思います。師範の先生
方、錬成部の先生方ありがとうございました。

スコア付け教室の様子



スコア付け教室、開催いただきありが
とうございます。

月例試合など当番にあたることもありま
したが、意味もよくわからずにおりま
した。今回の教室で教わったことでスコア
付けだけでなく、剣道のルールも理解
が深まったと感じました。

わかるようになったのが嬉しかったせい
なのか、3日にテレビ放送された全日
本選手権も、少し見てしまうくらいに、
はまってしまいました。

この度は、スコア付け講座を開催して
いただきましてありがとうございました。
昨年は、試合が無くスコアをつける機
会がありませんでしたので、忘れていた
部分を思い出すことができました。今回
教えていただいた事を忘れないうちに
子供達の試合ができるようになればい
いと思いました。

もっと知りたい！ 駒剣錬成部！！

日々の駒剣のお稽古で、駒剣士に指導をしてくれたり、ご自身の鍛錬に励まれたりと子どもたちにとって憧れの錬成部の皆さん。お世話になっている錬成部の皆さんのことをもっと知りたいな！ということで不定期新連載です。こまだよ係が、お稽古でお会いした錬成部の方に順不同でお願いしております^^

お名前、駒剣歴、錬成部入会のきっかけ、今の駒剣士たちへ、駒剣の思い出などを
想いのままにお書きいただきました。

清水さん

こんにちは。なんちゃって職人の清水聡です。

駒剣歴

2008年に入りました。当時のキャプテンは田上君でした。13年経ちました。

錬成部に入ったきっかけ

息子を駒剣の剣道教室に入れたのを機会に私も高校以来、27年ぶりにリバイバルしました。2002年に交通事故に遭い、右足の膝から下を7か所骨折する大怪我をしたことがあり、医師からは『今後は激しい運動はできませんよ』と宣告されていましたので、恐る恐るのリバイバルでした。でも、おかげさまで2009年に初段を頂いて2019年には五段を頂くまでに至っています。

駒剣の思い出

初めて参加した夏の合宿。稽古（当時は朝食前に朝練があった）や、各種お楽しみイベント、夜の〇〇会、就寝後の〇〇先生のいびきなど。六送会での勝ち抜き戦。最後の田上キャプテンと当たってしまい、大人げなく勝ってしまったこと。（だって必死にやらないと負けちゃうもん）

新井さん

名前 新井孝哉 あらいたかや

駒剣歴

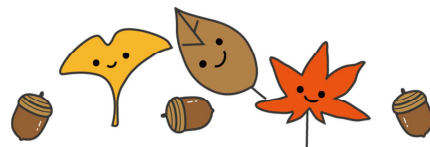
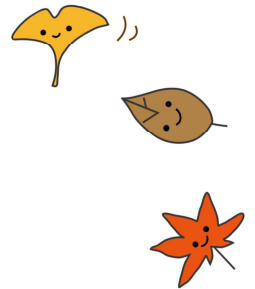
2008年～（あの頃君は若かった～今より20kg近く太っていました、驚き～）

錬成部に入ったきっかけ

うちの奥さんが、本荘先生の奥様と職場で出会いました。そのご縁で小2の息子が入会し、何故か私も全くの初心者から始める事になりました。

入会の頃

子供の頃から太っちょの私は運動部の経験ありません。大人になっても運動しななきゃまずい



ぞと、思っているだけでした。面つけも、しばらくできなくて尾島先生や6年生にやってもらってました。竹刀を3回くらい振ると息が切れて吐きそうになりました。本荘先生は真顔で大丈夫?と心配してくれました。きっと死にそうに見えたのでしょう。

駒剣のみんなへ

それでも細々続けてこられたのは、駒剣の皆様に、励まされたり、褒められたりしたからです。ちっとも上手にできないけど思い切り身体を動かして汗をかくと、色々よくよした考えや、気持ちが、スッキリと晴れやかになりますね。

おじさんになってから始めた私は全然身に付かないけど、みんなの年頃は、技や動きがどんどんできるようになって凄いね!羨ましい。剣道以外も水泳や球技でもなんでも色々楽しんで取り組んだら良いみたいだよ。これからも一緒に稽古して下さい(木曜日)

齋藤さん

齋藤緑です。

武道といったものと一番遠い存在であった私が駒剣に入会させていただき、錬成部員となって丸8年(2013年~)になるでしょうか。



幼稚園の時から剣道を始め、高校時代はほぼ剣道漬けの毎日を送ってきた主人(齋藤耕)と結婚し、子どもを授かり、その息子にもいつかは剣道をとってきました。小学2年生から入会可能と知り、それを待って駒剣の剣道教室に参加させていただきました。本入会と同時に毎回付き添うだけではもったいないと思っていたところ、主人からの「一緒にやったら」のひと言に背中を押され、たくさん子どもたちに混じりお母さん一人稽古に加えていただきました。まったくの初心者で稽古の内容も理解できず、なかなか子どもたちのようには順応できませんでしたが、とにかく続けさせていただき今に至っています。入会して2ヶ月経ったある稽古の時、終了間際の早素振り中にケガ(肉離れ)をして数ヶ月休まざるを得ず、ご迷惑をおかけしたこともありました。後援部副部長の間は主に見とり稽古中心でしたが、それも貴重なときであったと思います。その間、主人も長いブランクを経て剣道を再開し、駒剣に入会させていただきました。家族揃ってお稽古させていただく機会も与えられたことは感謝でした。息子が卒業後の4月、母子一緒に一級審査に合格できたことは忘れられない思い出です。息子は中学生になって卓球部に入り剣道をすることはなくなりましたが、その後も私たち夫婦は駒剣で稽古を続けさせていただいています。現在、主人は五段、私は二段です。温度差はありますが、それぞれに昇段を目標に正しい剣道ができるよう励んでいます。これからもお稽古、またご指導をいただけますようよろしくお願いいたします。

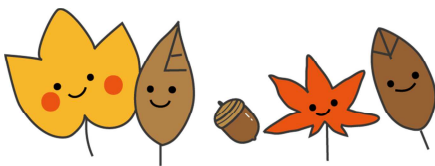
石井さん

尾島先生からお声がけいただき、2017年に錬成部に踏み込んだわけですが、今、まさかこんな状況になるとは思いませんでした。誰も思っていなかったですよ。



錬成部に入ったときに、息子は中学1年生でした。息子の中学の剣道部は、輝かしい先輩からの伝統で、埼玉大学の寒稽古に参加することになっていました。剣道を始めた親として、息子の中学の外部団体に入っていた私も、自然と埼玉大学の剣道部の主催する、朝の寒稽古に参加させていただきました。「まあ、出来るところまでやろう」という気持ちだったのですが、またこれが楽しくて楽しくて。寒くて体は痛くてしんどいんですけど、「ただ者じゃない先生方」が続々現れて下さり、お話を聞けて、面白いんです。

剣道もなんでもそうなのですが、結局、人との出会いなのだな。そして、幸せな出会いをするかどうかなのだなあ、と思いました。私にとって剣道は、ただ者じゃない先生方や、フレッシュな心を持った若い皆さまと出会える貴重な場です。そして、今思うのが、その機会は、有限である、というか、やはり一期一会なのだなあ、という事です。私は駒剣を作られた丸山先生には、お会いした事はありません。先生方からお話を伺うたび、お会いしてみたかったなあ、と思いません。年々入って卒業して行く駒剣士たちや、その保護者の方たちとも、一期一会です。



今、色々な制限があって大変だし、寒稽古も中止になっています。でも、いいものは、たとえ形が変わっても、残ります。ちょっとずつ、機会は取り戻して行けると思います。焦らず、あきらめず、出来るところで精進しましょう。

峯さん

駒剣歴

2013年から2017年3月末までは後援部。1年あいて2018年から錬成部でお世話になっていきます。剣道歴はまだ3年半です。

錬成部に入ったきっかけ

私には息子が3人いまして(現在、大3、高2、高1)駒剣でお世話になったのは次男です(長男、三男はバレーボール)。次男が剣道を始めてすぐから事あるごとに「母も剣道しようよ」と誘ってきてくれましたが、自分には絶対に無理だと断り続けました(今思えば、その時に始めていれば…)。2018年の剣道教室、大人で初心者の武笠さんが参加するから一緒にとお声掛けいただき、次男からは「これが剣道する最後のチャンスじゃない？」と背中を押され、剣道教室に参加することにしました。想像以上に楽しい剣道教室の時間を過ごし…今に至ります。

駒剣のみんなへ

おぼちゃんになって始めた剣道はとても難しくなかなか身につかないけれど、みんなと過ごしている時間はとても楽しいです。いつもありがとうございます。



こまだよアーカイブ

「こまけんだより」の元となる広報紙は2002年4月に「心技体」というタイトルで始まり
ました。来春には20周年を迎えます。そこで過去の広報紙を読み返し、これはと感じた記事を
令和の読者の皆様にお届けいたします。

駒場剣友会の「保護者の会」はなぜ「後援部」と言うのでしょうか？広報紙「月刊 KOMAKEN」
2004年3月号に駒場剣友会を作られた丸山先生が綴られています。

駒場剣友会は人間形成道場である。

2004.2.14 丸山記

私が**駒剣に期待していることは、立派な人間になるための基礎を培う処**であってほしいということである。一刀は万刀に化するというように、剣道の錬成が人間の育成になることを念頭に、剣道の一挙一動を人間形成の一つ一つに位置づけて指導し、会員はそれを習得して欲しいのである。同時に会員は生活の仕方の一つ一つが、剣道の上達に関わるように、自覚して行動してほしいのである。

その環境作りは、師範(剣道の指導者)の自覚が第一である。師範は根っことなり、機関車とならなければならない。師範がこの理念をしっかりと自覚して指導に当たれば“ただ勝てばいい”“格技は勝たなければやる意味がない”などの体質は生まれてこないのだ。

勝つことを否定するものではない。勝つことは大切である。なぜならば、人間形成の重要な手段だから！

“あいつは下手だ”“のろまだ”など個性を無視した声も出ないはずだ。人の顔が一人一人違うように、人間にはそれぞれの特徴があると同時にそれは掛け替えのないものなのだ。良い方に良い方に伸ばしていくのが指導者であり保護者でありよき友人である。そういう人になるような影響力をもった駒場剣友会にしたいのである。

会則を改正して保護者会でなく後援部としたのは、**一人の子の保護者ではなく“人間形成を目指す会の充実・発展を後援するのだ”**との意識をしっかりと持っていたかかったからである。人は社会の中で育つのだ。“駒剣が良くなればそこにいるものも良くなるのだ”と考えている。逆に一人の上達にこだわったら、周りはみな敵だ。一人ならトップだが、他人の良さ悪さがわからない井の中の蛙なのだ。それが良くないことは知っていながら、我が子にだけ目が心がいってしまうのが人情というものなのだろう。大変失礼なことを言ってしまったが、平素の協力の様子から後援部員の方々には大方のご理解をいただいていると感じている。さらに、後援部の皆さんが“相手が上手になればうちの子も上手になる”“周りの者が思いやりがあればうちの子も思いやりのある子になる”“駒剣が良くなれば子供たちが良くなり、うちの子もその中で良くなるのだ”と信じて駒剣を丸ごと背負ってほしいのである。

会則で指導部・錬成部・後援部としたのは、上記の趣旨のほかに、会員がみな同等の発言権を持っていることを表したものだ。絶対多数は後援部にある。したがって、後援部には正しくリードする責任があるのだ。**駒剣の浮沈は後援部の方々の会を愛する心・育てる力にかかっている。**このところを十分ご理解いただき、積極的にご協力くださるようお願いする次第である。

こうした運営の結果、子供たちは日々熱心に稽古に励み、立派な態度で正しい剣道をして強く上手になり、どんどん勝ちあがる選手が輩出され、人間として社会に有益な人に育ってくれば、駒剣は良き思い出の元になり、各人の生き様の根っことなって万々歳である。

役員の皆さん、会員の皆さん！ この趣旨をご理解くださって、趣旨徹底と会の充実発展にご協力くださるようお願いする次第である。



石井のetc日記

